

本書は、運転操作や一部装備についてかんたんに分かりやすく説明しています。
詳しい取り扱いおよび注意点については、別冊の取扱説明書をご覧ください。



目次

排気ガスをクリーンにする装置

DPD について

(DPD : ディーゼル パティキュレート ディフューザー)

尿素 SCR システムについて

(SCR : セレクティブ キャタリティック リダクション)

快適な運行のために

電動パーキングブレーキについて

インテリジェントキーについて

デュアルクラッチ式 AMT について

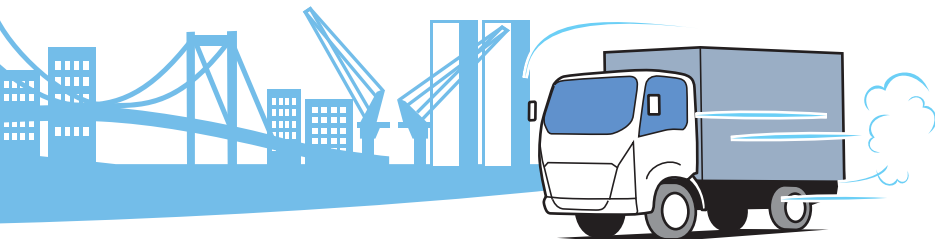
安全運転をサポートするシステム

先進運転支援システムについて

その他

PTO について

(PTO : パワー テイクオフ)

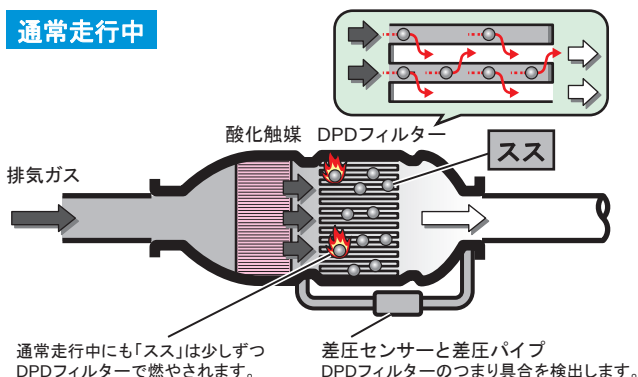


DPDについて

(DPD : ディーゼル パティキュレート ディフューザー)

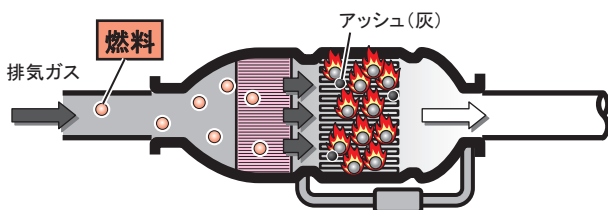
- DPD は、排気ガス中のスス (PM : 粒子状物質) を DPD フィルターで捕らえて排気ガスをクリーンにする装置です。

通常走行中



再生制御中

排気ガスに燃料を混ぜてDPDに送ると酸化触媒に反応して高温になり「スス」を燃やします。これを再生と言います。



DPD の定期メンテナンスについて

- お車の排気ガスをクリーンな状態に保つため、一年ごとに DPD 装置の定期点検をお願いします。点検により、DPD フィルター、差圧パイプなどの清掃が必要になる場合があります。また、DPD の性能を維持するため、燃料系統 (燃料フィルター、インジェクターなど)、吸気系統 (エアエレメントなど) の定期点検・整備をお願いします。
- DPD フィルターがアッシュ (灰) により、早期につまる原因となりますので、エンジンオイルは必ず指定の日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1 を使用してください。

DPD の再生について

- DPD フィルターにススが一定量堆積すると、自動的にススを燃焼させて DPD フィルターの機能を回復させます。これを、『DPD の再生』と言います。
- DPD の再生には『自動再生』『手動再生』『任意手動再生』があります。

DPD の自動再生

- 走行中、メーターディスプレイ内に「DPD 自動再生中」が表示され、自動で再生されます。

DPD 自動再生中は、そのまま走行 OK



DPD の手動再生

- 自動再生でススが燃えきらないときは、手動再生を促す表示が出ます。
- 再生は、通常 20 ～ 25 分程度で完了します。

- 1** 草木や枯れ草、紙くすなど、燃えやすいものがない安全な場所に停車する

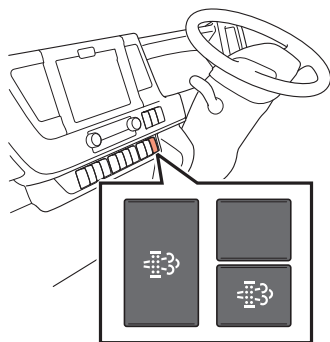


- 2** シフトレバーを『P』（マニュアルトランスミッション車は『N』）位置にし、パーキングブレーキを確実に効かせる

- 3** エンジンをアイドリング状態にする

- 4** DPDスイッチを押す

- 再生が始まり、再生を示す表示に変わります。



アドバイス

- 手動再生中は車を動かさないでください。手動再生が中断されてしまいます。
- 手動再生をせずに走り続けると、DPD フィルターにススが溜まり続けてエンジンの出力が制限されます。このとき、エンジン制御警告灯が点灯し、DPD の修理が必要となります。

DPD の任意手動再生

- 再生を促す表示はされませんが、ある程度ススが溜まると、任意で手動再生できます。
- 燃えやすいものがない安全な場所に停車し、シフトレバーを『P』（マニュアルトランスミッション車は『N』）位置にし、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンをアイドリング状態にしてから操作を始めてください。

アドバイス

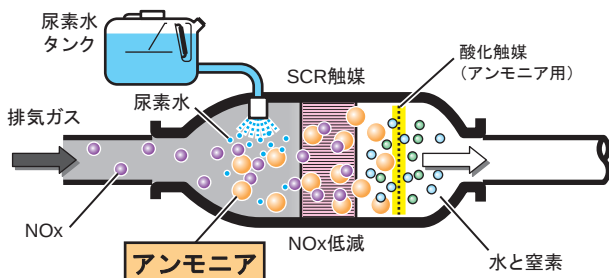
- ecostop 付車は、エンジンが自動停止したら、スタータースイッチで再始動してください。
- PTO 装着車は、PTO の作動を停止してください。

- 1 「任意再生確認中」表示（橙）が点灯するまで、DPDスイッチを押し続ける
- 2 「任意再生確認中」表示（橙）から「DPD再生が必要です」表示（橙）に変わったら、もう一度、DPDスイッチを押す
 - 「DPD 再生が必要です」表示（橙）から「DPD 手動再生中」表示（橙）に変わり、再生が始まります。

尿素SCRシステムについて

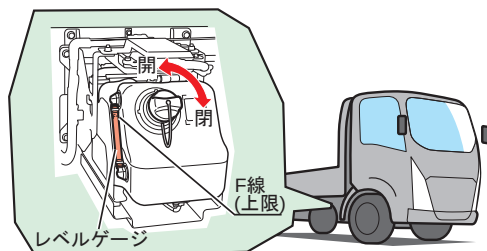
(SCR : セレクティブ キャタリティック リダクション)

- 尿素 SCR システムは、排気ガス中の窒素酸化物 (NOx) を浄化する装置です。
- 排気ガスの熱で尿素水 (AdBlue® 相当) からアンモニア (NH3) を生成します。アンモニアを還元剤として窒素酸化物 (NOx) を還元し、無害な窒素と水分に分解し浄化します。



アドバイス

- 尿素水タンク正面のレベルゲージは、尿素水 (AdBlue® 相当) の入れ過ぎやあふれを防ぐために取り付けられています。尿素水残量を量るものではありませんので、尿素水残量は、メーターディスプレイに表示されている尿素水量表示で確認します。



尿素SCRシステムについて

尿素水 (AdBlue® 相当) について

日産指定の尿素水をお使いください。

- JIS (日本工業規格) AUS 32 JIS K2247、または ISO (国際標準化機構) AUS 32 ISO 22241 の規格に適合した尿素水を使用してください。
- 尿素水は水分が蒸発しないように容器を密封し、直射日光が当たらない風通しの良い屋内などで保管してください。

火災や尿素SCRシステムの故障になるおそれがあります。

尿素水補給時のご注意

- 尿素水タンクには、尿素水以外のものを入れないでください。
- 誤って指定の尿素水以外のものを補給したときは、尿素 SCR システムの点検が必要です。ただちに《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。



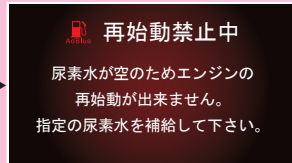
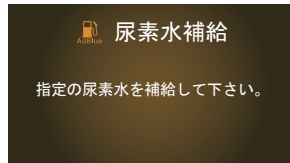
警告表示と処置について

- 警告が表示されたら、ただちに尿素水を補給してください。

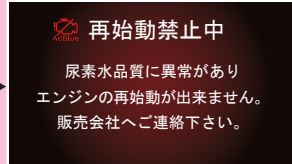
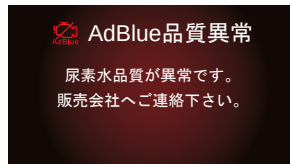


- 警告が出てそのまま走行を続けると、再始動禁止中の警告が表示されます。

尿素水が
空になっても
走行し続けた



尿素水の品質に
問題があっても
走行し続けた



アドバイス

- 「再始動禁止中」が表示されたまま走行し続けると、尿素 SCR システムが故障します。
- ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検・修理を受けてください。

警報音『ピー——…(連続)』が鳴り続けます。エンジンを停止すると、再始動できなくなります。

尿素水が空になったときの、エンジン再始動の手順

- 1 スタータースイッチを『LOCK』位置にする
- 2 尿素水を5L以上補給する
- 3 スタータースイッチを『ON』位置にする
- 4 メーターディスプレイの表示が消灯し、警報音『ピーー…(連続)』が鳴りやむのを待つ
 - メーターディスプレイの表示と警報音『ピーー…(連続)』が鳴りやまないときは、スタータースイッチを『LOCK』位置に戻し、さらに尿素水を補給し、手順3からやり直します。
- 5 エンジンを始動する

電動パーキングブレーキについて

- 電動パーキングブレーキは、パーキングブレーキの作動と解除をモーターが行うシステムです。
- 電動なので、パーキングブレーキの操作が軽く、パーキングブレーキの効きが自動で最適になります。

アドバイス

- 電動パーキングブレーキスイッチを操作するとモーター音がしますが、異常ではありません。
- スタータースイッチが『ACC』または『LOCK』位置のときは、電動パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキは解除されません。パーキングブレーキを解除するときは、スタータースイッチを『ON』位置にしてください。

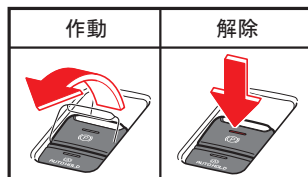
パーキングブレーキをかけるとき

スイッチを引き上げる

- パーキングブレーキが作動を開始すると、パーキングブレーキ警告灯およびスイッチ部の表示灯が点滅します。
- パーキングブレーキが完全にかかる、パーキングブレーキ警告灯およびスイッチ部の表示灯が点灯します。

アドバイス

- 電動パーキングブレーキは、スタータースイッチの位置に関係なく効かせることができます。



パーキングブレーキを解除するとき

ブレーキペダルを踏みながらスイッチを押す

- パーキングブレーキを解除し始めると、パーキングブレーキ警告灯およびスイッチ部の表示灯が点滅します。
- パーキングブレーキが完全に解除されると、パーキングブレーキ警告灯およびスイッチ部の表示灯が消灯します。

アドバイス

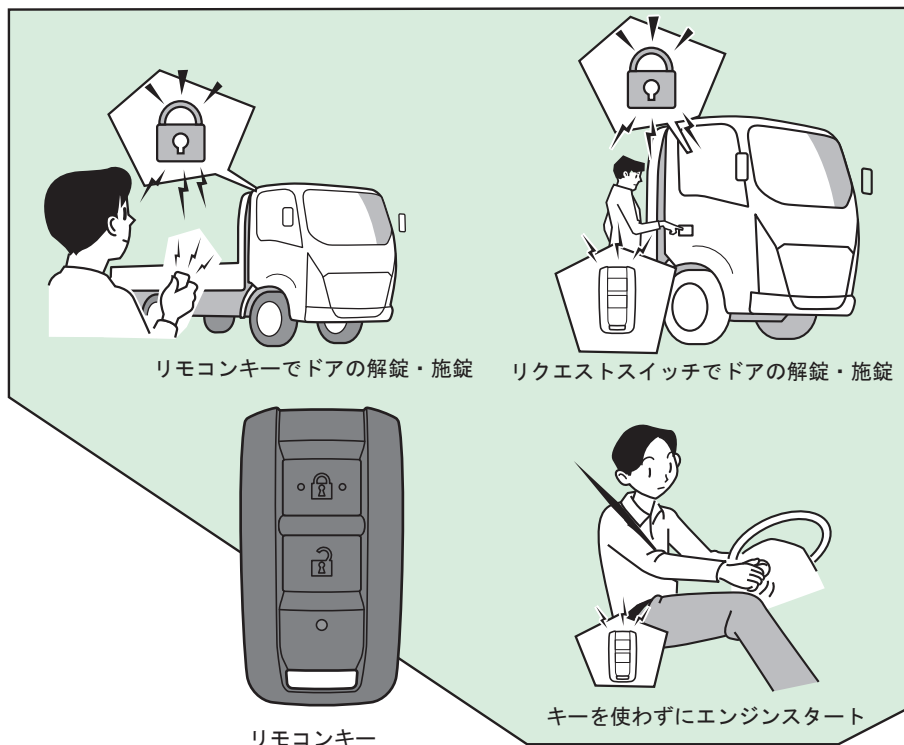
- パーキングブレーキ警告灯の消灯を確認してから発進してください。電動パーキングブレーキスイッチを押してからパーキングブレーキが解除されるまで 1 秒程度かかるため、スイッチを押してからすぐに発進すると、パーキングブレーキを効かせたまま走行することになり、パーキングブレーキ破損の原因になります。

MEMO

電動パーキングブレーキについて

インテリジェントキーについて

- インテリジェントキーは、リモコンキーを携帯することでキーを使わずにドアの解錠・施錠やエンジンの始動ができるシステムです。
- リモコンキーを携帯しているだけでドアハンドルのリクエストスイッチ操作で解錠・施錠ができます。



キーについて

- リモコンキーの電池切れなどの際にドアの解錠・施錠を行うためのキーが付いています。
- フューエルキャップの解錠・施錠にも使用します。

アドバイス

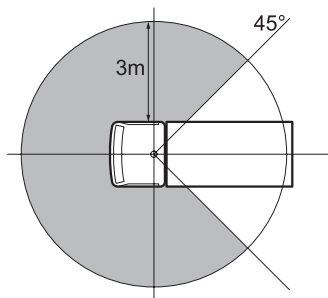
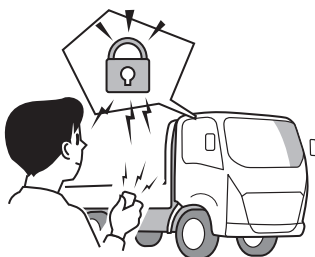
- リモコンキーの電池切れや故障などを考慮し、キーとリモコンキーと一緒に携帯してください。

キー



リモコンキーによるドアの解錠と施錠

- リモコンキーは、キャブから 3m 以内で作動します。



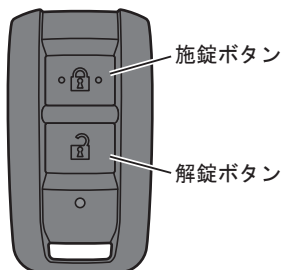
ドアを解錠するとき

リモコンキーの解錠ボタンを1秒以上押し続けてから離す

- 左右のターンシグナルランプ（方向指示器）が同時に 2 回点滅し、解錠されます。

アドバイス

- マップランプスイッチの位置が『DOOR』のとき、ルームランプが約 20 秒間点灯します。



ドアを施錠するとき

リモコンキーの施錠ボタンを1秒以上押し続けてから離す

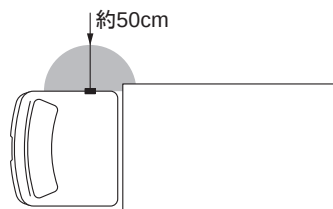
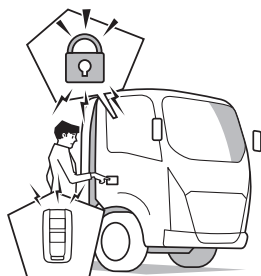
- 左右のターンシグナルランプ（方向指示器）が同時に 1 回点滅し、施錠されます。

アドバイス

- マップランプスイッチが『DOOR』位置にあり、ランプが点灯しているときは、ランプが消灯します。

リクエストスイッチによるドアの施錠と解錠

- リモコンキーを取り出さなくても携帯するだけで、ドアハンドルのリクエストスイッチを押して解錠・施錠できます。
- リクエストスイッチは、運転席側ドアハンドルの周囲約 50cm 以内にリモコンキーがあるときに作動します。



ドアを解錠するとき

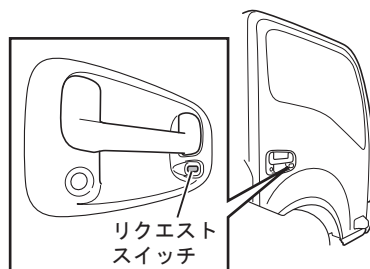
ドアが施錠されているとき、
ドアハンドルのリクエストスイッチを押す

- ブザー『ピピッ』が鳴り、
左右のターンシグナルランプ（方向指示器）
が同時に 2 回点滅し、解錠されます。

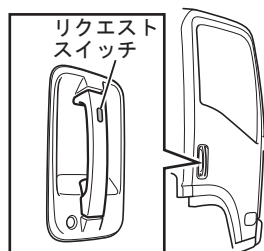
アドバイス

- マップランプスイッチの位置が『DOOR』の
とき、ルームランプが約 20 秒間点灯します。

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



ドアを施錠するとき

ドアが解錠されているとき、
ドアハンドルのリクエストスイッチを押す

- ブザー『ピッ』が鳴り、
左右のターンシグナルランプ（方向指示器）
が同時に 1 回点滅し、施錠されます。

アドバイス

- マップランプスイッチが『DOOR』位置にあり、
ランプが点灯しているときは、ランプが
消灯します。

エンジンの始動・停止

エンジンの始動方法

- リモコンキーを携帯して操作します。

1

マニュアルトランスミッション車

シフトレバーを『N』位置にし、クラッチペダルをいっばいに踏み込む

デュアルクラッチ式 AMT 車

シフトレバーが『P』位置にあることを確認し、ブレーキペダルをしっかりと踏み込む

2

スタータースイッチを押しながら『ON』位置にする

- グロー（予熱）表示灯が約 0.5 秒間～約 4 秒間点灯します。（エンジンの温度により点灯の長さが異なります）



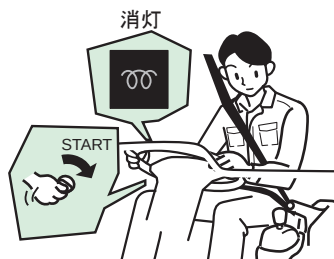
アドバイス

【スタータースイッチが回らないときは】

- リモコンキーが作動範囲外にあるときや電池が切れている場合など、インテリジェントキーを認識できなかった場合は、スタータースイッチを『LOCK』位置から回すことはできません。
- スタータースイッチを押したときにインテリジェントキーを認識できなかった場合、「キーを認証してください」がメーターディスプレイに表示され、ブザー『ピーーーー…（連続）』が鳴ります。このようなときは、リモコンキーを携帯していることを確認してください。
- リモコンキーを携帯しているにもかかわらず「キーを認証してください」がメーターディスプレイに表示され、ブザー『ピーーーー…（連続）』が鳴ったときは、キーの携帯位置を変え、再度スタータースイッチを操作してください。

3

グロー表示灯が消灯したことを確認し、スタータスイッチを『START』位置まで回し、エンジンを始動する

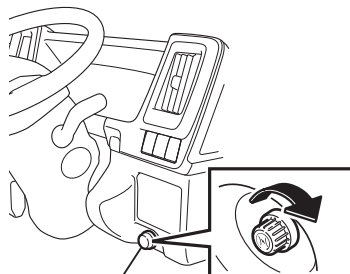


アドバイス

- リモコンキーが車外にあってもドアやドアガラスに近づきすぎた状態では、エンジンが始動できることがあります。
- リモコンキーでのエンジン始動ができない場合は、『インテリジェントキーが正常に作動しないとき』を参照しエンジンを始動してください。(⇒本書の 17 ページ)

アドバイス

- エンジンが不安定なときは、アイドリングコントロールノブを回して安定するように調整し、暖機運転をします。
- 暖機運転後は、アイドリングコントロールノブを左にいっぱい回しアイドリング状態にします。



アイドリングコントロールノブ

エンジンの停止方法

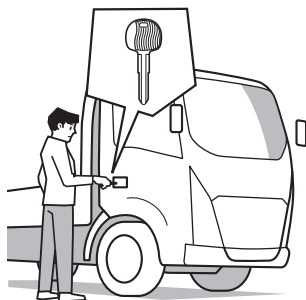
- 1 パーキングブレーキを確実に効かせる
- 2 アクセルペダルから足を離してスタータスイッチを『ACC』または『LOCK』位置にする

インテリジェントキーが正常に作動しないとき

- リモコンキーの電池が切れたときや周囲の電波状況により、リモコンキーが認識されない場合があります。
- リモコンキーが認識されない場合は、次の要領でドアの施錠・解錠やエンジンの始動を行います。

ドアの施錠・解錠をするとき

キーを使用して、ドアの施錠・解錠を行ってください。



エンジンを始動するとき

1

マニュアルトランスミッション車

シフトレバーを『N』位置にし、クラッチペダルをいっばいに踏み込む

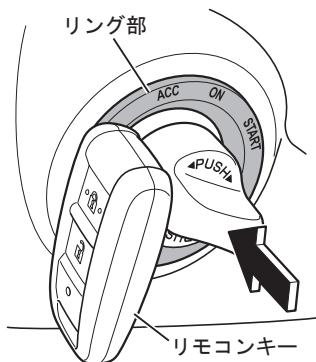
デュアルクラッチ式 AMT 車

シフトレバーが『P』位置にあることを確認し、ブレーキペダルをしっかりと踏み込む

2

リモコンキーをスタータースイッチのリング部に当て、スタータースイッチを押す

- 「キー照合完了」がメーターディスプレイに表示されます。
- キーを認識できないときは、「キーを認証してください」がメーターディスプレイに表示され、ブザー『ピーーー…（連続）』が鳴りますので、リモコンキーがリング部に当たっているか確認してください。



3

「キー照合完了」を確認し、10 秒以内にスタータースイッチを回してエンジンを始動する

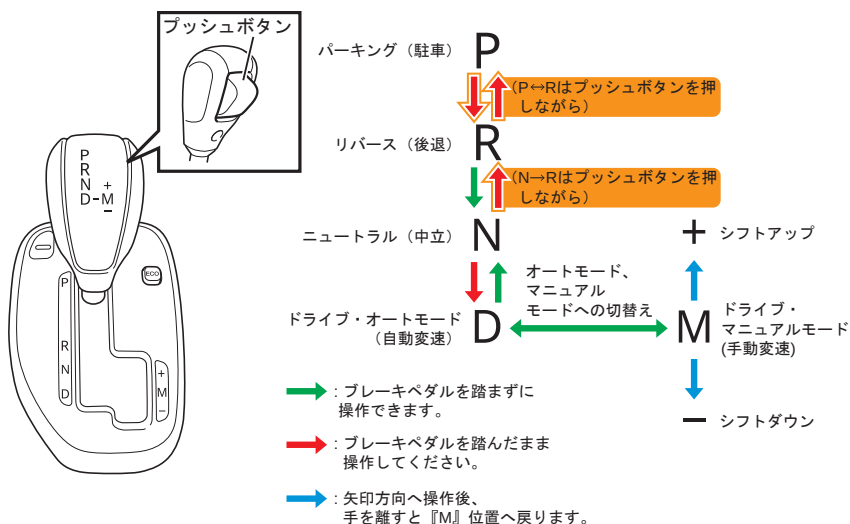
- 10 秒以内にエンジンの始動を行わなかった場合は、再度手順 2 からやり直してください。

アドバイス

- 手順どおりに行ってもエンジンが始動できないときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

デュアルクラッチ式AMTについて

- デュアルクラッチ式 AMT は、電子制御によりクラッチ・変速の操作を自動的に行うシステムです。
- オートモード時は、アクセルペダルの踏み加減と車速に応じて自動変速します。
- 『M』位置では、ギヤ段が固定になりますので一定のギヤ段で走行できます。また、『+ (UP)』または『- (DOWN)』操作で、任意のギヤを選ぶこともできます。



デュアルクラッチ式 AMT の操作について

エンジンを始動するとき

- 1 パーキングブレーキが効いていることを確認し、ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 2 シフトレバーが『P』位置にあることを確認する
- 3 エンジンを始動する

アドバイス

- スタータースイッチを『ON』位置にしてシフトインジケーターの『P』表示を確認してからエンジンを始動してください。『D』位置ではエンジン始動はできません。



発進（前進）するとき

- 1 必ずブレーキペダルを踏んだままシフトレバーを『D』位置にする

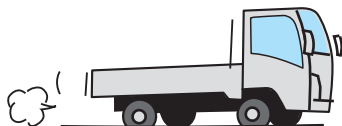
アドバイス

- シフトインジケーターの点滅中は、ギヤの変速途中のため、駆動力は伝わりません。点灯するまでしっかりとブレーキペダルを踏み続けてください。
- 『D』の位置では、オートモードでの運転になります。

- 2 パーキングブレーキを解除し、アクセルペダルを踏み込む



自動的にクラッチがつながり発進！



発進（後退）するとき

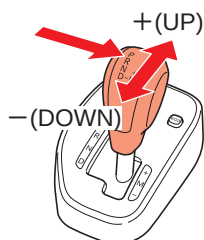


アドバイス

- 前進段からの切り替えは、必ず車両を停止させてから行います。

走行するとき（マニュアルモードに切り替える場合）

- 高速道路への進入時に加速を必要とするとき。
- 登坂路や渋滞路において一定のギヤで走行したいとき。
- 降坂時にエンジンブレーキを必要とするとき。



停止・駐車するとき

1 ブレーキペダルを踏んで停止する

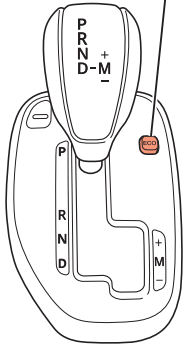
- 停止後自動的に発進段に戻ります。

2 駐車するときは、シフトレバーを『P』位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせてからエンジンを止める

こんな場合は

強い駆動力で走行
したい場合は

ECONOモード
切替えスイッチ

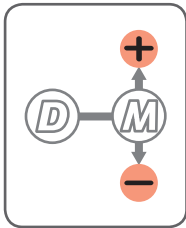


ECONO（エコノミー）モード機能（オートモード時のみ）

- ECONO モードは、シフトアップを早くして燃費を向上させるための機能です。
- ECONO モード切替えスイッチを押して ECONO モードを解除してください。



発進時のギヤ段を
選びたい場合は



発進ギヤ段選択機能

- 車両停止中にシフトレバーを『+ (UP)』または『- (DOWN)』に操作し、発進ギヤ段を選択します。
- 選んだギヤ段は、シフトインジケーターで確認します。

デュアルクラッチ式 AMT の故障時の処置について

- デュアルクラッチ式 AMT システムの電気系統に故障が発生した場合は、以下の手順で車両を安全な場所まで移動させ、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

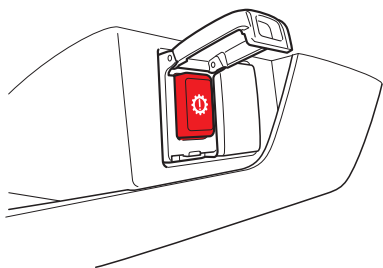
- 1 パーキングブレーキを確実に効かせ、ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込んだまま、スタータースイッチを『LOCK』位置にし、シフトレバーが『P』位置にあることを確認する



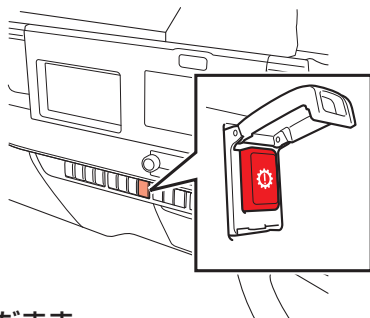
- 2 スタータースイッチを『ON』位置にする

- 3 デュアルクラッチ式AMT非常用スイッチのカバーを外してスイッチを押し、メーターディスプレイに「スーマー非常モード」が表示されていることを確認する

標準キャブ・ハイキャブ車



ワイドキャブ車



- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んだままエンジンを始動し、パーキングブレーキを解除し、シフトレバーを前進は『D』または『M』 後退は『R』位置に操作する

- シフトインジケーターに、前進は「D」または「M2」、後退は「R」が点灯していることを確認してください。

- 5 ブレーキペダルを離し、アクセルペダルをゆっくり踏み込んで発進する



(デュアルクラッチ式 AMT 警告灯) の点灯について

- スタータースイッチを『ON』位置にすると橙色で点灯し約 2 秒後に消灯します。デュアルクラッチ式 AMT のシステムに異常があると橙色または赤色で点灯します。
- 走行中に橙色または赤色で点灯したら安全な場所へ停車し、消灯しない場合はただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

先進運転支援システムについて

先進運転支援システムとは

- ステレオカメラなどの先進テクノロジーを駆使したさまざまな機能によって、ドライバーの視覚を補完し判断を助け、安全・快適な運転を可能にする運転支援システムです。

アドバイス

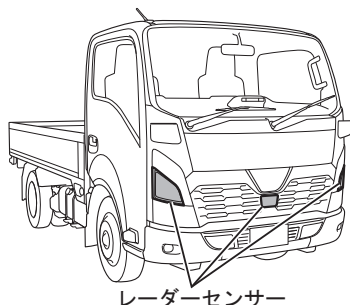
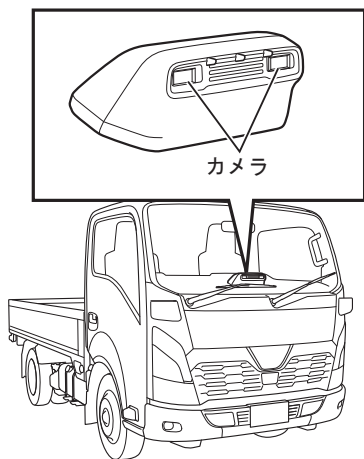
- 先進運転支援システムは自動運転 / 自動衝突回避システムではありません。先進運転支援システムに頼った運転は、絶対に行わないでください。

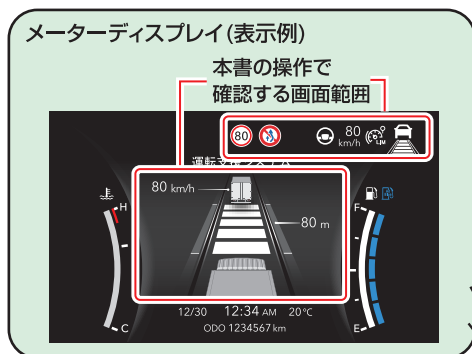
先進運転支援システムで検知に使われる装置について

- カメラやレーダーセンサーで情報を収集・分析します。フロントガラスおよびレーダーセンサーの汚れや着雪に注意してください。
- 異常時には、メーターディスプレイに注意を促すメッセージが表示されます。表示に応じて対処してください。

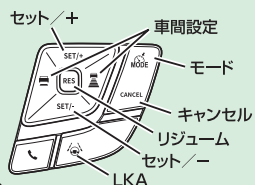
アドバイス

- カメラのレンズは清掃しないでください。





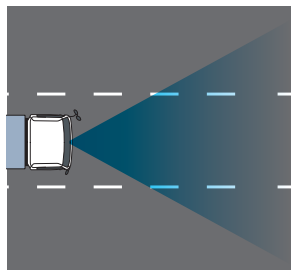
先進運転支援システムの
操作に使うスイッチ
機能の設定や停止をするときに
使います。



車線逸脱警報 (LDWS)

車線からの逸脱を警報で知らせ、安全運転に貢献

- 走行中に車両が車線から逸脱するとカメラが感知し、警報音とメーターディスプレイ表示により注意を促します。本システムは車速が60km/h以上で作動します。

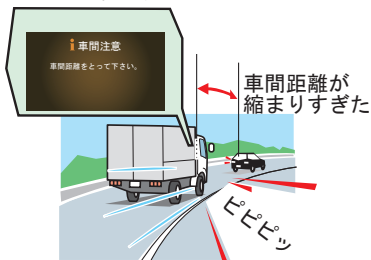


車間距離警報

安全な車間距離の確保を促し、追突事故の抑制に貢献

- 走行中の先行車との車間距離を検知し、車両が安全の範囲を超えて接近した場合には警報音とメーターディスプレイ表示によりドライバーに注意を喚起し、危険回避を促します。

車間距離警報表示



プリクラッシュブレーキ (PCB)

追突が避けられない場合の被害軽減に貢献

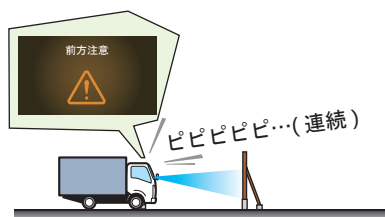
- プリクラッシュブレーキは、先行車や渋滞最後尾等の停止車両、交差点横断中の二輪車や歩行者への接近に対し警告を発し、ドライバーに危険回避を促します。さらに、追突が避けられない場合は、自動的に緊急ブレーキを作動させて衝突速度を低減し、被害の軽減を図ります。



誤発進抑制機能

発進時に起こる衝突事故の被害軽減に貢献

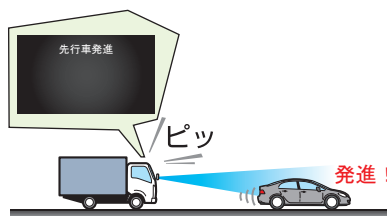
- 誤発進抑制機能は、停車中に車両前方の障害物を検知し、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたときに、エンジン出力の制限により衝突速度を低減し、被害の軽減を図ります。また警報音とメーターディスプレイ表示により注意を促します。



先行車発進お知らせ機能

停車中に先行車の発進を警報で知らせ、安全運転に貢献

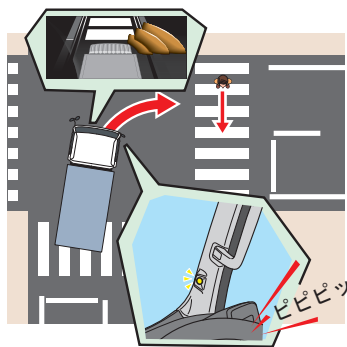
- 先行車発進お知らせ機能は、停車中に先行車を検知し、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、警報音とメーターディスプレイ表示により注意を促します。



ブラインドスポットモニター

接近する移動物の存在を警報で知らせ、安全運転に貢献

- レーダーセンサーを使用して周囲の移動物の存在を運転者に知らせることにより、交差点進入時、右左折時および発進時の前方確認を支援するシステムです。移動物の接近状態に応じてフロントピラー部のBSM表示灯や警報音、メーターディスプレイ表示でドライバーに注意を促します。



ドライバーステータスマニター

運転者の状態を検知し、警報による注意喚起で安全運転に貢献

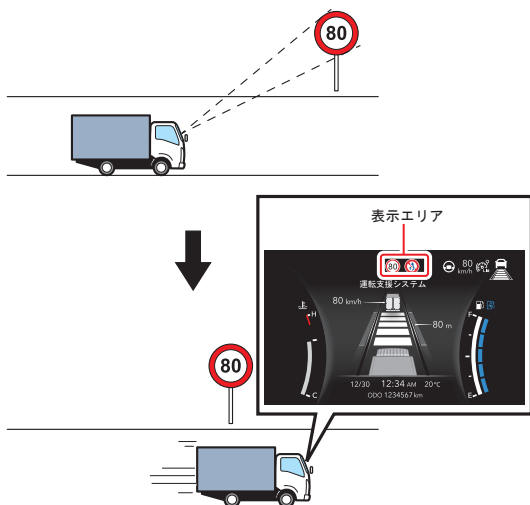
- ドライバーモニターカメラを使用して運転者の顔の向きや姿勢、表情などを測定し、運転者の状況に応じて警報音や音声警報、メーターディスプレイ表示などで注意や休憩を促します。



標識認識機能

自車線の交通標識を検知し、警報による注意喚起で安全運転に貢献

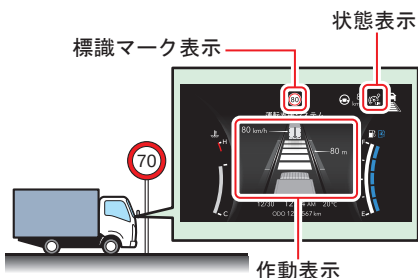
- 標識認識機能は、カメラが認識した交通標識をメーターディスプレイに表示することで、交通標識の見落としを防ぎ、安全運転を支援します。
- 認識した交通標識に対し、禁止行為を行っているとしてシステムが判断した場合は、警報とメーターディスプレイ表示でドライバーに注意を促します。



標識連動型スピードリミッター

制限速度に応じて速度制限を行い、安全運転に貢献

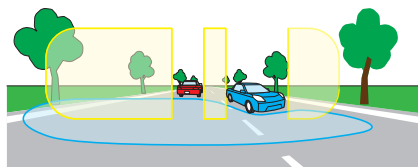
- 標識連動型スピードリミッターは、道路ごとの制限速度に応じて自動で速度制限を行います。
標識認識機能によりカメラが検知した制限速度を、30km/h から 120km/h の範囲内で自車の上限速度に設定することができます。



可変配光型ランプ

ヘッドランプの照射範囲・明るさを自動的に変化させ、夜間の安全運転に貢献

- 夜間走行時に前方状況判断し、ヘッドランプの照射範囲、照射部分や明るさを自動的に変化させます。



ドライバー異常時 対応システム (EDSS)

ドライバーの健康状態に起因する事故の抑制に貢献

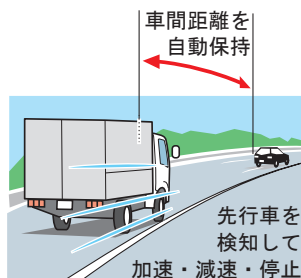
- 健康起因などによりドライバーに異常が発生した際に、車内外へ異常事態を報知するとともに、車両の減速を行い停車させることができるシステムです。



全車速車間クルーズ

最適車間距離を保ったオートクルーズで安全運転に貢献

- オートクルーズ機能に加え、先行車を検知すると、設定された車間距離を維持するようにエンジン・フットブレーキ等により加速・減速・停止を行います。
- 先行車を検知／消失した場合、メーターディスプレイ表示でドライバーに知らせます。

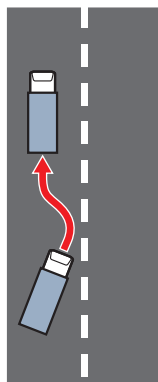


レーンキープアシスト

車線内を走行中にハンドル操作を一部アシストし、安全運転に貢献

- 車線が整備された道路を走行する際に、運転者の車線内走行を支援するシステムです。また走行中の車線を逸脱するおそれがあると判断した場合には警報を行い、回避するためのハンドル操作を一部アシストします。

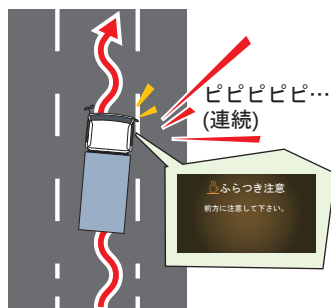
アシスト力



ふらつき警報

車線内走行中のふらつきや急ハンドルを検知し、安全運転に貢献

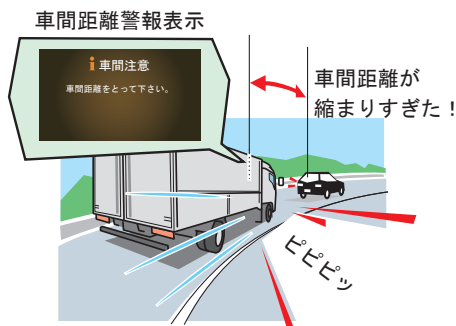
- 車両がふらついている場合、または危険と思われるハンドル操作があった場合にメーターディスプレイ表示と警報音で注意を促すシステムです。本システムは車速が70km/h 以上で作動し、約 65km/h 以下になるまで作動し続けます。



車間距離警報について

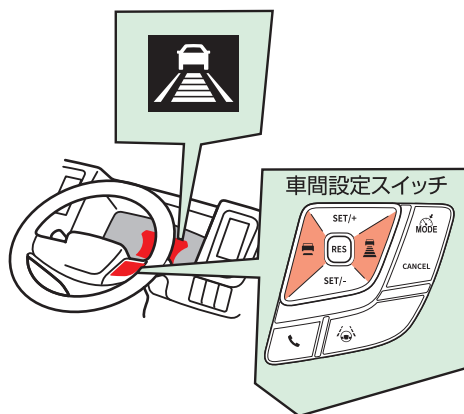
車間距離警報について

- 先行車や障害物などの前方の物体に接近したときに、警報音とメーターディスプレイ表示でドライバーに注意を促します。



車間距離の設定を変えたいときは

- 車間距離の設定状況は、メーターディスプレイに表示されます。
- 車間設定スイッチの『』で遠くなり、『』で近くなります。



アドバイス

- 先行車との速度差によって、警報が発生する距離は変化します。

車線逸脱警報装置 (LDWS) の使い方 (LDWS: レーン デパーチャー ワーニング システム)

車線を逸脱したときは

- 逸脱した方向と同じ方向の車線表示が橙色に変わります。
- 車線から逸脱したときの、警告のタイミングを設定できます。

警告の表示例



左側の警告



右側の警告



アドバイス

- 車線逸脱警報は、エンジン始動後、約 10 秒間は作動しません。
- 警告のタイミングはメーターディスプレイの設定画面から設定できます。タイミングは「早い」または「標準」から選択できます。
- タイミングの目安について

早い：車線を踏んだときに、警報音を鳴らし注意表示をする

標準：車線を越えたときに、警報音を鳴らし注意表示をする

衝突被害軽減

- ## アドバイス

- ## プリクラッシュブレーキシステムの作動

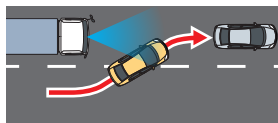
- ## 作動イメージ



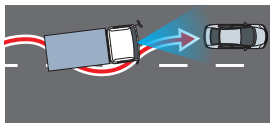
- ## 先進運転支援システムについて

車線逸脱警報装置 /
衝突被害軽減プリクラッシュブレーキ

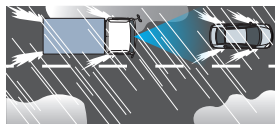
衝突時に、プリクラッシュブレーキが作動しないことがある状況



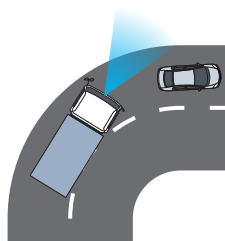
走行中に急な割り込みがあったとき



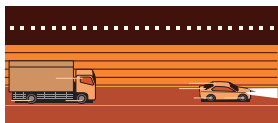
- ・急なハンドル操作を行ったとき
- ・大きなハンドル操作を行っているとき



荒天下で（豪雨、吹雪、雪など）
前方障害物の検知がしにくいとき



きついカーブや起伏がある場所を走行するとき



夜間またはトンネル内で
ヘッドランプを点灯していないとき



強い光（太陽光などの逆光やハイビーム）を前方から受けたとき



「フロントカメラ一時停止」「フロントカメラ故障」が表示されている、または PCB OFF 表示灯が点灯しているとき

- ブリクラッシュブレーキは車両のほかに歩行者や自転車も検知しますが、歩行者や自転車が以下の状態の場合はブリクラッシュブレーキが作動しないことがあります。



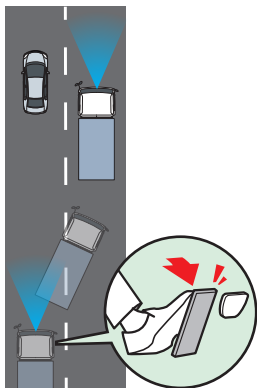
- ① 前かがみになっている、しゃがんでいる、横たわっている
- ② 横からの急な飛び出し
- ③ 集団で歩いている
- ④ 傘などをさしている
- ⑤ 壁際や別の障害物のそばにいる
- ⑥ 背景と似た色合いで風景に溶け込んでいる
- ⑦ 大きな荷物を持っている
- ⑧ 暗い場所にいる
- ⑨ 自転車が子供用、大きな荷物を載せている、複数人乗りなど、特殊な形状をしている
- ⑩ 高さが 1m 以下、または 2m 以上
- ⑪ 歩行者や自転車利用者が、レインコートやロングスカートなどを着用しており体の輪郭がはっきりしない
- ⑫ 歩行者や自転車利用者が高速で移動している
- ⑬ 歩行者がベビーカーや車いす、自転車などを押している

運転者の操作によるプリクラッシュブレーキの解除

- 以下の操作を行った場合、衝突の危険があっても本システムは作動しません。

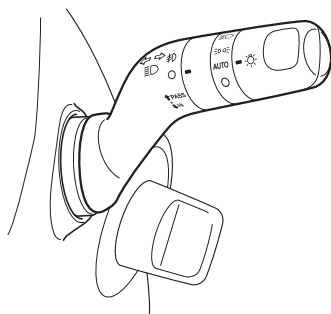
アクセルペダル踏みなおし時

- アクセルペダルを離した後に強く踏み込んだ場合、警報、ブレーキは解除されます。



ターンシグナルスイッチ操作時

- ターンシグナルスイッチの操作によって、警報とブレーキが解除されます。（交差点右左折時、または緊急制動中を除く）



ブレーキペダル操作時

- ブレーキペダル操作があった場合、警報は解除されます。（緊急制動中を除く）

ブレーキ



PCB 設定 OFF 時

- メーターディスプレイでプリクラッシュブレーキ設定を『OFF』にした場合、プリクラッシュブレーキは解除されます。

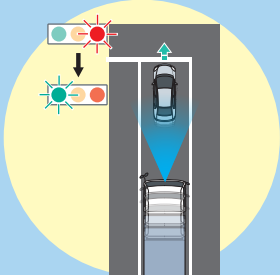
PCB の留意点

次のような状況では、プリクラッシュブレーキが
作動する場合があります。

- 特に以下のような状況では、ブレーキペダル操作で十分に減速を行ってください。

先行車両に
急接近したとき※

※特に渋滞時や信号待ちから、前進し始めている車両へ接近しないでください。



このようなときは10km/h以上の速度で前方の車両に接近しないでください。

先行車両に急接近
する前に

ETC ゲートを
通過するとき



20km/h以上の速度でETCゲートに進入しないでください。

ETCゲート進
入する前に

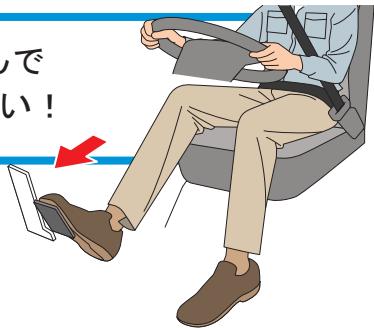
カーブ入口へ進入する際、
正面に障害物があるとき



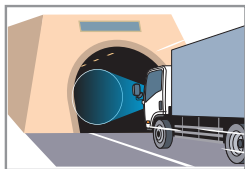
減速せずに、カーブへ進
入しないでください。

カーブの手前で

ブレーキペダルを踏んで
十分に減速してください！



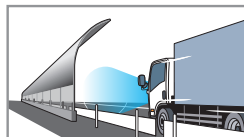
その他のプリクラッシュブレーキが作動することがある状況



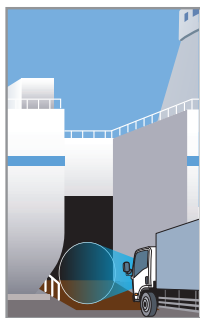
狭いトンネルを通過するとき



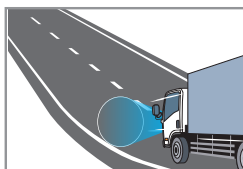
鉄橋、ガードの下、高速道路の料金所などを通過するとき



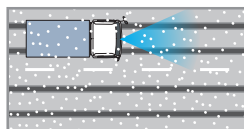
路肩がほとんど無く、ガードレールや防風壁のような構造物の直近を走行するとき



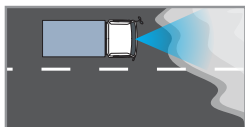
フェリー乗船時や船舶内を走行するとき



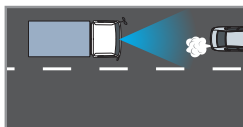
路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき



荒天下（大雪、吹雪など）を走行するとき



水蒸気や煙の中を通過するとき



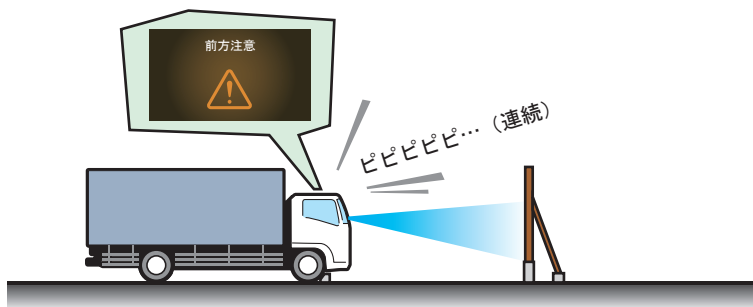
寒いときなどで、先行車の排気ガスがはっきり見えるとき

アドバイス

- 上のような状況では、ドライバーの意思に反してプリクラッシュブレーキが作動することがあります。必要に応じて『運転者の操作によるプリクラッシュブレーキの解除』を参照し、プリクラッシュブレーキを解除してください。（⇒本書の36ページ）

誤発進抑制機能について

- 誤発進抑制機能は、停車中に車両の前方に障害物を認識している状態で、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したときに、エンジン出力を制限し発進を緩やかにすることで、衝突時の被害を軽減します。また警報音・メーターディスプレイ表示でドライバーに注意を促します。



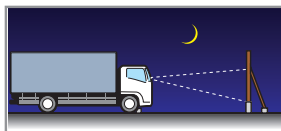
アドバイス

- 誤発進抑制機能は急勾配では作動しません。
- 誤発進抑制機能はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。また、衝突を回避するものではありません。本システムを過信せず安全運転を心掛けてください。
- 故意に障害物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を誤発進抑制機能のみに頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 誤発進抑制機能は先行車との距離が近い場合にも作動しますが、先行車が離れていくと解除されます。
- 誤発進抑制機能は、エンジン始動後、約 10 秒間は作動しません。
- システムの ON/OFF はメーターディスプレイの設定画面から設定できます。

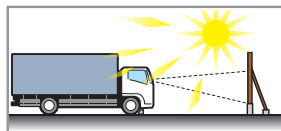
誤発進抑制機能が作動しないことがある状況



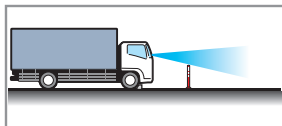
荒天下で（豪雨、吹雪、雪など）前方障害物の検知がしにくいとき



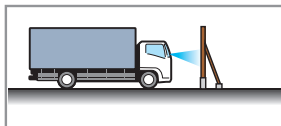
夕方、朝方の薄暗いときや、夜間、屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき



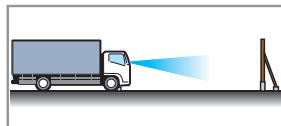
強い光（太陽光などの逆光やハイビーム）を前方から受けたとき



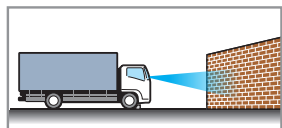
障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両や小動物、幼児など）



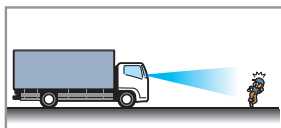
障害物に接近しすぎたとき



障害物から4m以上離れているとき



障害物がフェンスや模様が均一（縞模様やレンガなど）な壁、または模様が全くない壁、およびシャッターなどのとき



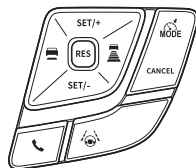
車両、二輪車、自転車、歩行者などの障害物が横から割り込んだり、飛び出してきたとき

運転者の操作による誤発進抑制機能の解除

- 以下の操作を行った場合、衝突の危険があっても本システムは作動しません。

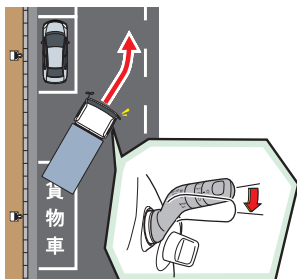
キャンセルスイッチ操作時

- 誤発進抑制機能の作動中にキャンセルスイッチを操作した場合は、誤発進抑制機能が停止します。
- 停止状態で走行し、アクセルペダルを離すと誤発進抑制機能が自動復帰します。



ターンシグナルスイッチ操作時

- ターンシグナルスイッチの操作によって、警報とエンジン出力制限が解除されます。



急な勾配の上り坂 / 下り坂で発進するときや低速で走行するとき

- 急勾配の場合、警報とエンジン出力制限が解除されます。

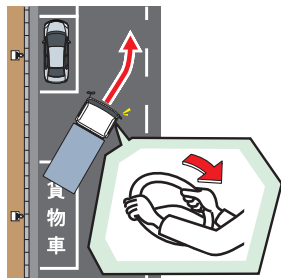
アクセルペダル開放時

- アクセルペダルを離した場合、警報とエンジン出力制限が解除されます。



ハンドル操作時

- ハンドルの操作によって、警報とエンジン出力制限が解除されます。



シフトレバーを『P』、『R』または『N』位置にしたとき

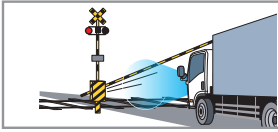
- ギヤポジションの変更によって、警報とエンジン出力制限が解除されます。

誤発進抑制機能 設定 OFF 時

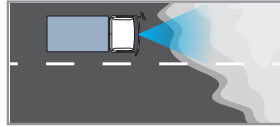
- メーターディスプレイで誤発進抑制機能設定を『OFF』にした場合、誤発進抑制機能は解除されます。

誤発進抑制機能の留意点

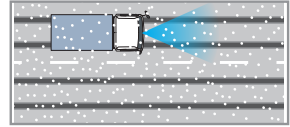
発進するとき次のような状況下では、誤発進抑制機能が作動する場合があります。



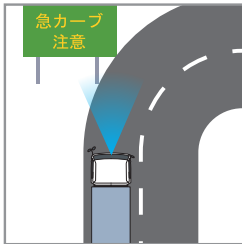
駐車場や遮断機のバーが
上がりきる前のとき



水蒸気や煙の中を通過す
るとき



荒天（豪雨、吹雪、雪など）
のとき



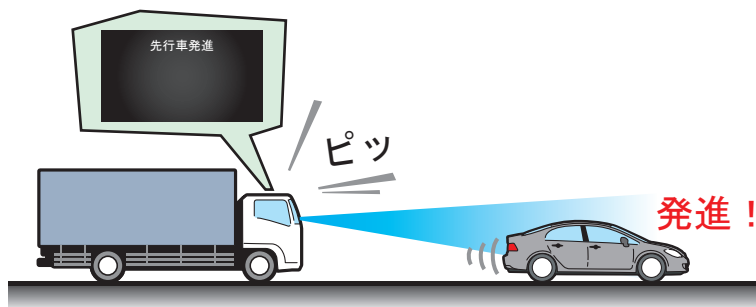
カーブや交差点に障害物
や車両があるとき

次のような状況下では、誤発進抑制機能は自動で解除されますが、急発進を防ぐため加速度制限を行います。

- ・ システムが一時的に故障したとき
- ・ アクセルペダルを 3 秒以上踏み続けたとき
- ・ 機能作動中に車速が約 20km/h を超えたとき
- ・ 先行車が自車から離れたとき
- ・ 先行車がいなくなったとき
- ・ 先行車が別の新しい先行車と入れ替わったとき

先行車発進お知らせ機能について

- 先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、警報音とメーターディスプレイ表示で運転者にお知らせします。先行車に続いて停車（車間距離が約 14m 以内、かつ自車がしばらく停車）すると先行車を認識し続け、先行車が発進して約 5m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。

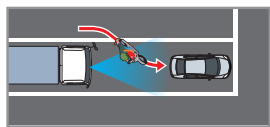


アドバイス

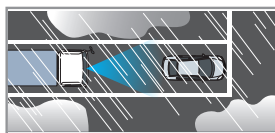
- 先行車発進お知らせ機能は信号および道路標識を確認する機能を備えていないため、信号および道路標識に従い安全運転を心掛けてください。

先行車発進お知らせ機能が作動することがある状況 / 作動しないことがある状況

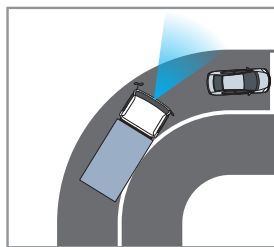
- 以下の状況下では、先行車が発進していなくても先行車発進お知らせ機能が作動したり、先行車発進時に先行車発進お知らせ機能が作動しないことがあります。



停止した先行車との間に二輪車などが割り込んできたとき



荒天下で（豪雨、吹雪、雪など）先行車の検知がしにくいとき



きついカーブや起伏がある場所を走行するとき

先進運転支援システムについて

誤発進抑制機能の留意点 / 先行車発進お知らせ機能

運転者の操作による先行車発進お知らせ機能の停止

- 以下の操作を行った場合、先行車が発進しても本システムは作動しません。

先行車発進お知らせ機能設定 OFF 時

- メーターディスプレイで先行車発進お知らせ設定を『OFF』にした場合、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

シフトレバーを『R』位置に入れたとき

- シフトレバーを『R』位置に入れると、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

パーキングブレーキ操作時

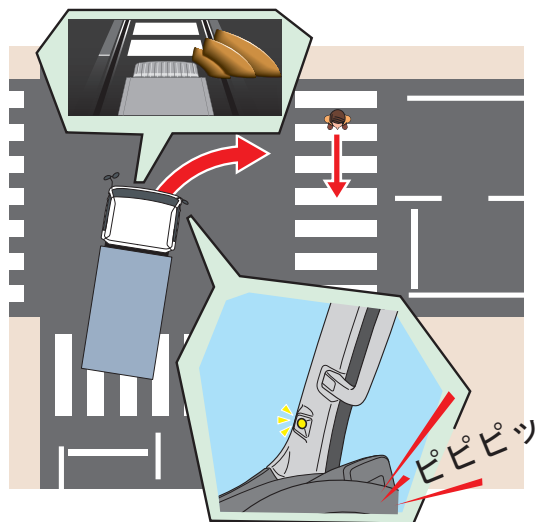
- パーキングブレーキ操作があった場合、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

発進操作をしたとき

- ドライバーがアクセルペダルを踏む、またはギアイン操作をして発進操作をすると、先行車発進お知らせ機能は作動しません。
- 全車速車間クルーズの停車保持中にリジュームスイッチを押した場合、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

ブラインドスポットモニター（BSM）について

- ブラインドスポットモニターは、レーダーセンサーを使用して周囲の移動物の存在を運転者に知らせることにより、交差点進入時、右左折時および発進時の前方確認を支援するシステムです。

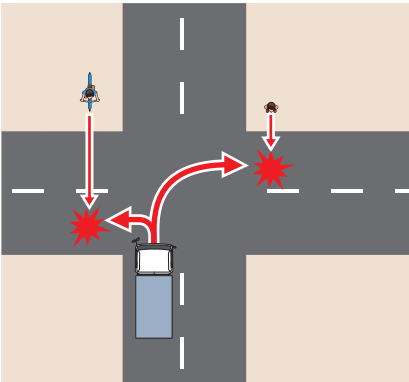
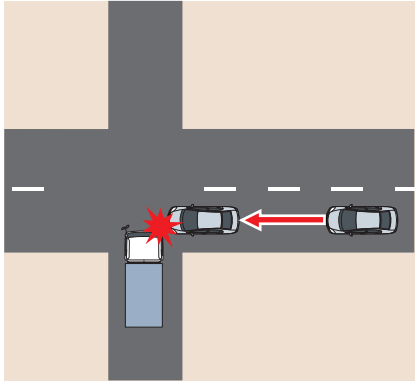
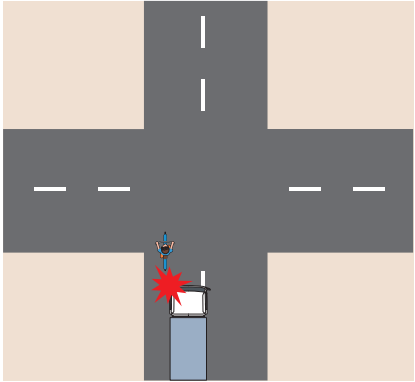


アドバイス

- ブラインドスポットモニターは、運転者の前方確認を支援するシステムです。右左折確認、交差点進入の可否を判断したり、車両や障害物との接触を回避するものではありません。本システムを過信せず安全運転を心掛けてください。
- 状況によっては、システムが作動しないことがあるため、運転時の安全確認の際は、必ず周囲を目視で確認してください。システムを過信すると重大な事故につながるおそれがあります。
- 警報機能の ON/OFF はメーターディスプレイの設定画面から設定できます。
- フロントブラインドスポットモニター OFF スイッチを押すことで、フロントブラインドスポットモニターの ON/OFF を切り替えることができます。

ブラインドスポットモニターの作動

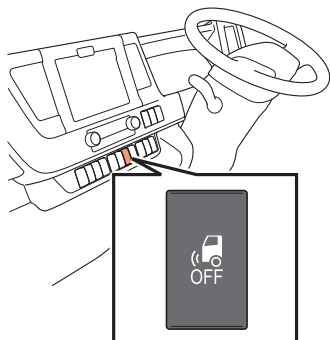
- ブラインドスポットモニターは、以下の状況で車両周辺に存在する物体を検知し、運転者に警報を行います。

交差点警報（右左折時）	
自転車および歩行者と衝突のおそれがある場合	
	
交差点警報（出会い頭時）	フロントブラインドスポットモニター
左右から接近する車両と衝突のおそれがある場合	車両前方の死角を移動する歩行者や自転車と衝突のおそれがある場合
	

フロントブラインドスポットモニターの ON/OFF

フロントブラインドスポットモニター OFF スイッチを押す

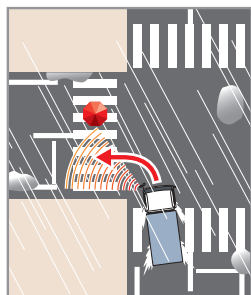
- スイッチを長押しするとフロントブラインドスポットモニターが作動しなくなります。このときフロントブラインドスポットモニター OFF 表示灯が点灯します。
- もう一度押すとフロントブラインドスポットモニターが復帰し、フロントブラインドスポットモニター OFF 表示灯が消灯します。



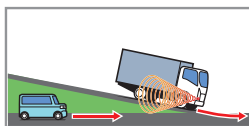
フロントブラインドスポット
モニター OFF 表示灯



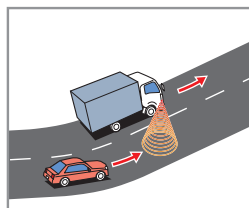
ブラインドスポットモニターが作動しないことがある状況



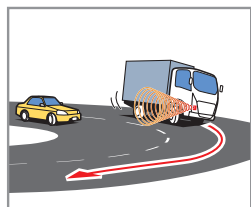
- ・悪天候のとき（雨・霧・雪など）
- ・凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行しているとき



自車と検知範囲に入る物体に高低差があるとき



急勾配の坂道を走行しているとき



車両が極端に傾いているとき

ドライバーステータスマニターについて

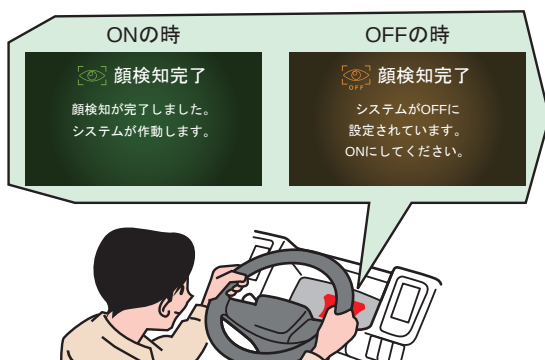
- ドライバーステータスマニターは、ドライバーモニターカメラを使用して運転者の顔の向きや姿勢、表情などを測定し、運転者の状況に応じて警報音や音声警報、メーターディスプレイ表示などで注意や休憩を促すシステムです。

アドバイス

- ドライバーステータスマニターを過信しないでください。運転するときは常に周囲の状況に注意し安全運転を行ってください。

ドライバーステータスマニターの作動開始

- ドライバーステータスマニターを『ON』にしているとき、運転者の顔認証が完了するとメーターディスプレイに「顔検知完了」が表示され、システムの作動が開始されます。

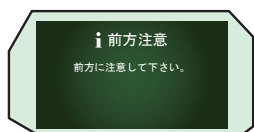


アドバイス

- ドライバーステータスマニターが『OFF』、かつ運転者の顔を検知したときは、「顔検知完了」とともに「システムをONにしてください」と表示されます。
- システムのON/OFF、警報音の音量や検知の感度などの各種設定はメーターディスプレイの設定画面から設定できます。

ドライバーステータスマニターの警報

前方注意警報 / 視線検知警報



ピー
前方に注意して
ください

集中力低下警報



ピー
休憩しませんか

エアコン連動機能

- 運転者のまぶたの動きから強い眠気を感じているとシステムが判断したとき、エアコンから冷風を吹き出し注意を促します。
- 作動中にドライバーモニターカメラを手で覆うと、冷風を停止できます。

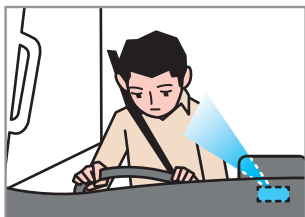


アドバイス

- エアコン作動時にメーターディスプレイに警報が表示されない場合がありますが故障ではありません。

ドライバーステータスモニターが正常に作動しないことがある状況

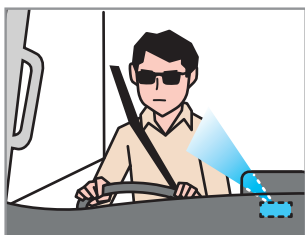
- 次のような場合、運転者の状況を正確に認識できないためシステムが正常に作動しないことがあります。



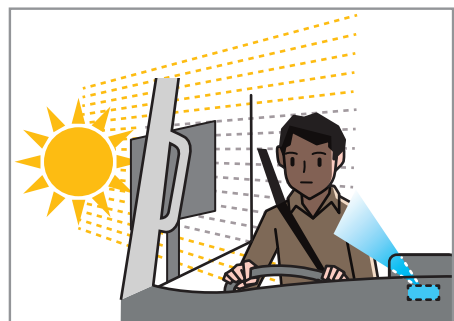
- ・ メーターなどの確認で伏し目になったとき
- ・ 前のめりになったり、窓から顔を出したりして運転姿勢が崩れたとき



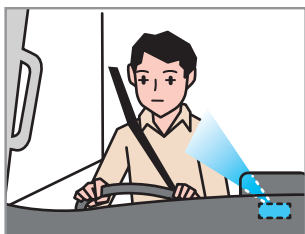
- ・ 笑ったときやまぶしいときなど、目を細めたとき
- ・ 太陽光などの強い光が直接運転者やドライバーモニターカメラを照らしているとき
- ・ 太陽光などの運転者を照らす光の強さが急激に変化するとき



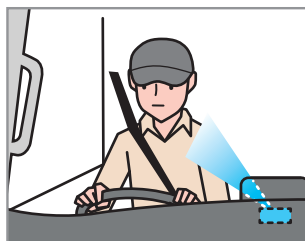
- ・ 運転者が赤外線を通しにくいサングラスを装着しているとき
- ・ メガネやサングラスに外の風景が強く映りこんでいるとき
- ・ メガネやサングラスに映りこんだ赤外線照明の光が目には被るとき



太陽光などの強い光により、運転者に影がかかっているとき



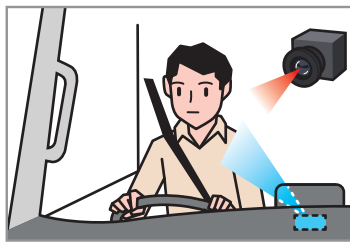
まばたきを繰り返したとき



運転者がメガネやマスク、眼帯、帽子、ヘルメット、タオルといった目や表情を隠すものを装着しているとき



- ・運転者とドライバーモニターカメラおよび赤外線照明の間に遮蔽物があるとき
- ・ドライバーモニターカメラの認識エリアから外れたとき



- ・車内に赤外線を照射する機器が搭載されている場合
- ・運転者の背後に赤外線の反射率が高いものがあるとき

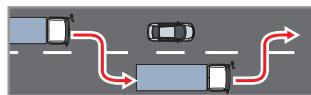


- ・運転者の背後に人物の写真や助手席の人の顔があるとき
- ・センターシートの同乗者が運転席側へ寄りかかるか、もたれかかったとき

- 次のような場合、車両の状況を正確に認識できないためシステムが正常に作動しないことがあります。



強風や悪路を走行していることにより車両が揺れているとき



走行中に車線変更や加減速を繰り返しているとき

標識認識機能について

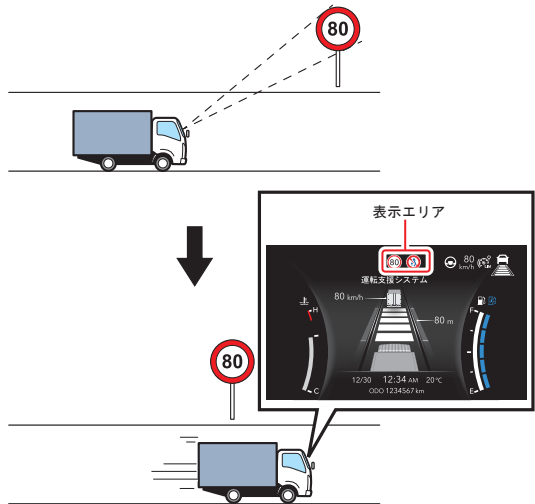
- 標識認識機能は、カメラが認識した交通標識をメーターディスプレイに表示することで、交通標識の見落としを防ぎ、安全運転を支援するシステムです。
- 認識した交通標識に対し、禁止行為を行っているときシステムが判断した場合は、警報音とメーターディスプレイ表示で運転者にお知らせします。

アドバイス

- 標識認識機能は、安全運転を支援するシステムです。悪天候のときや交通標識に問題がある場合は、システムが正しく交通標識を認識しない可能性があります。交通標識の確認を怠ると、思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ず運転者の責任で実際の交通標識を確認してください。
- カメラが交通標識を認識できない、またはカメラが一時的に停止や故障している場合、標識認識機能システムは作動しません。

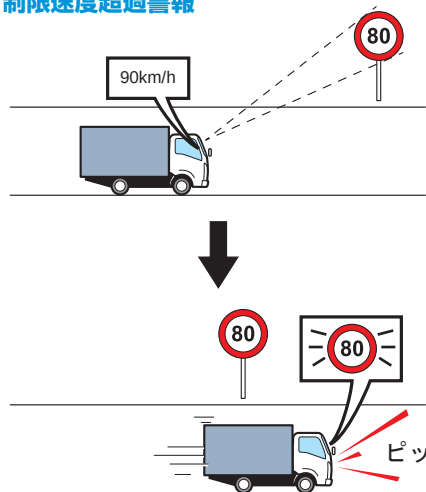
標識認識機能の作動

- 走行中に以下の標識を認識したとき、メーターディスプレイに表示します。
 - 制限速度標識
(車速が約 40km/h 以下のとき)
 - 進入禁止
 - 追い越し禁止
 - 一時停止
(車速が約 40km/h 以下のとき)
 - 高さ制限
(車速が約 40km/h 以下のとき)



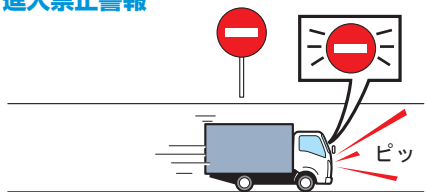
標識認識機能の警報

制限速度超過警報



- 走行中、カメラが認識した制限速度を超過すると、メーターディスプレイの制限速度標識アイコンが点滅し、同時に警報音が鳴ります。
- 周囲の状況を確認しながら、ブレーキペダルなどを使用して法定速度の範囲内まで減速してください。

進入禁止警報

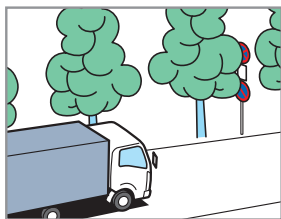


- 走行中、カメラが認識した進入禁止標識を通過すると、メーターディスプレイの進入禁止アイコンが点滅し、「進入禁止」が表示されます。同時に警報音が鳴ります。
- 一定時間が経過すると、警報は終了します。

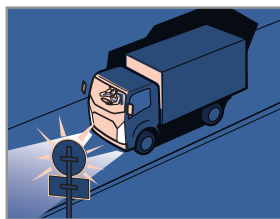
アドバイス

- システムの ON/OFF や警報に関する設定はメーターディスプレイの設定画面から設定できません。

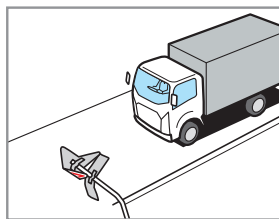
標識認識機能が正常に作動しないことがある状況



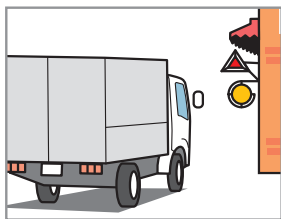
- ・交通標識が泥や砂などで汚れているとき
- ・交通標識が木や車で隠れているとき



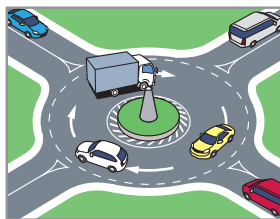
- ・交通標識の明るさが影などで一部異なるとき
- ・交通標識（電光標識を含む）が明るすぎるまたは暗すぎるとき
- ・夜間やトンネル内などで、交通標識がヘッドランプの当たらない位置にあるとき



- ・交通標識が曲がっているまたは歪んでいるとき
- ・交通標識が高すぎるまたは低すぎる位置にあるとき
- ・交通標識が大きすぎるまたは小さすぎるとき
- ・交通標識が高速道路の分岐路の直後、または車線の合流地点の直前にあるとき



- ・交通標識に形や色が似ている物体（認識対象外の道路標識、看板など）が認識可能な位置にあるとき
- ・先行車の後方に標識の認識を妨げるステッカー（標識に色や形が似ている、光を反射するなど）が貼られているとき
- ・側道の速度標識が自車カメラの認識範囲にあるとき
- ・インストルメントパネル上の物がフロントガラスに反射してカメラに写っているとき



- ・ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- ・パーキングエリアの出口や高速道路の料金所、またはその周辺を走行しているとき
- ・急カーブを走行しているとき



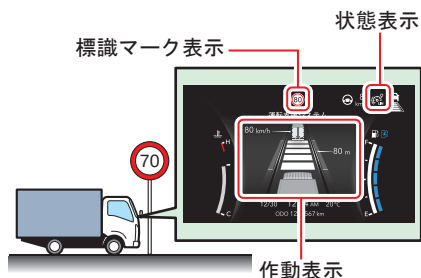
- ・トンネルを出入りするなどして、周囲の明るさが急に変化したとき
- ・前方から強い光を受けているとき（後方灯、ハイビームなど）
- ・強い光が道路に反射しているとき
- ・悪天候（雨、雪、霧など）の中を走行しているとき
- ・カメラが交通標識を認識する時間が短いとき
- ・システムが運転状況（曲がる、車線変更など）を正しく判断できなかったとき
- ・悪路で車両が傾いているとき

標識連動型スピードリミッターについて

- 標識連動型スピードリミッターは、道路ごとの制限速度に応じて速度制限を行います。
標識認識機能によりカメラが検知した制限速度を、30km/h から 120km/h の範囲内で自車の上限速度に設定することができます。

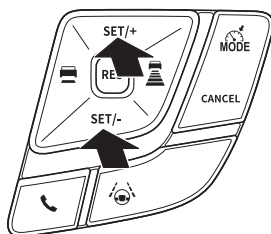
上限車速を設定するとき

- 標識連動型スピードリミッターをセットした状態での走行中にカメラが制限速度標識を認識すると、標識を通過後、メーターディスプレイの制限速度標識マーク下部に「RES」(白色)が表示されます。
- 「RES」が表示されている間にリジュームスイッチを押すと、上限車速が変更されます。またメーターディスプレイの「RES」が緑色に変わります。



上限車速を変更するとき

スイッチによる設定



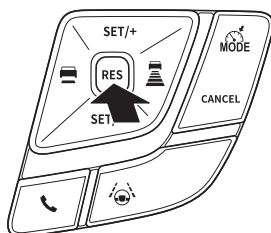
増速したいとき：SET/ +スイッチを押す

- スイッチを押し続けると、5km/h ずつ上がります。
- スイッチを操作してすぐに離すと、1 回の操作で 1km/h 上がります。

減速したいとき：SET/ -スイッチを押す

- スイッチを押し続けると、5km/h ずつ下がります。
- スイッチを操作してすぐに離すと、1 回の操作で 1km/h 下がります。

標識認識による設定



- セット車速と異なる制限速度標識を認識した場合は、標識を通過後、メーターディスプレイの制限速度標識マーク下部に「RES」(白色)が表示されます。
- 「RES」が表示されている間にリジュームスイッチを押すと、上限車速が変更されます。

標識連動型スピードリミッターの警報

- セットした上限車速を超過したとき、メーターディスプレイの状態表示エリアのアイコンが点滅します。
- 車速がセットした上限車速以下になるまで、点滅は継続します。



アドバイス

- システムの ON/OFF はメーターディスプレイの設定画面から設定できます。

可変配光型ランプについて

- 可変配光型ランプは、カメラを使用して夜間走行時に前方状況を判断し、ヘッドランプの照射範囲、照射部分や明るさを自動的に変化させるシステムです。
- 以下の状況で可変配光型ランプ表示灯（緑）が点灯し、可変配光型ランプが作動可能であることを示します。

- スタータースイッチが『ON』位置のとき。
- ライティングスイッチが『AUTO』位置のとき。
- レバーがハイビーム位置のとき。
- ロービームが点灯しているとき。
- メーターディスプレイの可変配光型ランプ設定が『ON』になっているとき。
- シフトレバーが『R』位置以外のとき。
- 時速 15km/h 以上で走行しているとき。
- システムが夜間と判断したとき。
- トンネル以外の場所にいるとき。



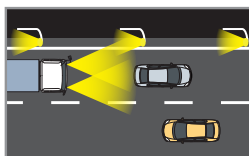
アドバイス

- 本システムを過信しないでください。運転するときは常に周囲の状況に注意し、必要に応じて手でハイビームとロービームを切り替えるなど、安全運転を行ってください。
- システムの ON/OFF はメーターディスプレイの MENU 画面から設定できます。

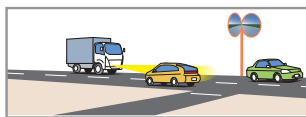
可変配光型ランプが正常に作動しないことがある状況



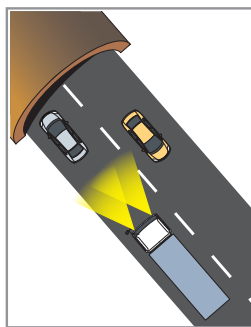
悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）



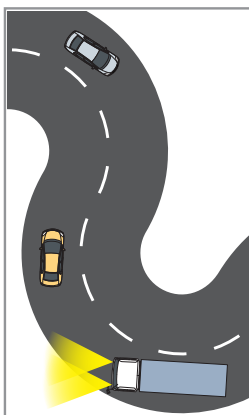
- ・周囲に街灯、電光掲示、信号機など、車両の灯火類に似た光源があるとき
- ・市街地など光源の多い環境を走行するとき



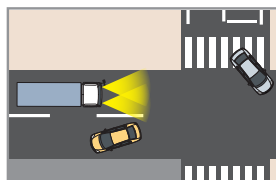
車両前方に標識やミラーや反射板など光を強く反射するものがあるとき



急激な明るさの変化が連続するとき



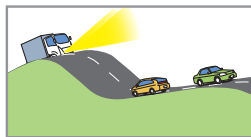
カーブが多い道路を走行しているとき



前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき



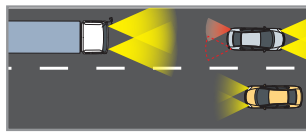
自車のヘッドランプが駐車車両に反射し、光源と認識したとき



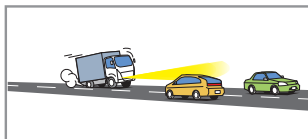
起伏や段差が多い道路を走行しているとき



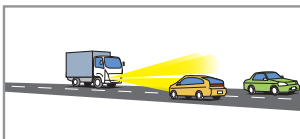
薄暗い早朝や夕暮れなど、周囲の暗さが不十分なとき



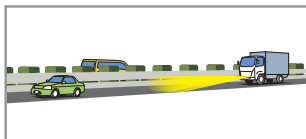
前方車や対向車のランプが暗いときや球切れしているとき



パンクやけん引、重い荷物などにより車両が傾いているとき



ハイビームとロービームをひんばんに切り替えているとき



中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき

ドライバー異常時対応システム（EDSS）について

ドライバー異常時対応システム（EDSS）とは

- 健康起因などによりドライバーに異常が発生した際に、車内外へ異常事態を報知するとともに、車両の減速を行い停車させることができるシステムです。

アドバイス

- 安全運転の責任はドライバーにあります。ドライバー異常時対応システム（EDSS）は健康起因などによりドライバーに異常が発生した場合に備え、安全に車両を減速・停止する支援を目的としていますが、さまざまな条件によりその効果は変わります。そのため、常に最大の効果を発揮できるものではありません。システムを過信せず、安全運転・健康管理につとめてください。
- 運転者の体調の急変等に伴い、危険を回避するためにシステムを作動させた場合に限り、システム作動に対する責任は問われません。

EDSS 作動スイッチについて

- EDSS 作動スイッチを押すことで車内外へ異常事態を報知するとともに、車両を停車させることができます。
- スイッチは、助手席からも手の届く位置にあります。



システムの作動

- EDSS 作動スイッチを押した場合、もしくはドライバーステータスモニターによりドライバー異常が検知された場合に、ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動します。
- ドライバー異常時対応システム（EDSS）は、スタータースイッチが『ON』位置のとき、システムのスタンバイ状態になります。

①通常走行

②ドライバー異常発生 (EDSS作動スイッチにて作動開始)

③車内報知・車外報知・ ブレーキ作動

アクセル操作無効

停車までブレーキ作動

- 車内報知
 - ・音声警報「非常ブレーキが作動しました」
 - ・メーターディスプレイ「非常ブレーキ作動中」表示
- 車外報知
 - ・ホーン吹鳴（断続）
 - ・ハザードランプ点滅
 - ・ストップランプ点滅（高速）

EDSSキ
ャンセル
スイッチ
によるシ
ステム解
除操作

④停車

アクセル操作無効

ブレーキ保持

自動ドアロック解除

- 車内報知
 - ・音声警報「非常ブレーキが作動しました。警察救急に連絡してください」
 - ・メーターディスプレイ「非常ブレーキ作動中」表示
- 車外報知
 - ・ホーン吹鳴（断続）
 - ・ハザードランプ点滅
 - ・ストップランプ点滅（高速）

停車後の
解除操作

⑤停車後のシステム解除

スタータースイッチ
『LOCK』で解除

先進運転支援システムについて

ドライバー異常時対応システム（EDSS）

①通常走行



②ドライバー異常発生
(ドライバーステータスマニターの
異常検知により作動開始)

- 車内報知
 - ・音声警報「姿勢を正してください」
 - ・メーターディスプレイ「姿勢を正して下さい。」

ドライバーの姿勢改善による作動キャンセル



③車内報知・車外報知・
弱いブレーキ作動 (約3秒間)

アクセル操作無効



- 車内報知
 - ・音声警報「非常ブレーキが作動しました」
 - ・メーターディスプレイ「非常ブレーキ作動中」表示
- 車外報知
 - ・ストップランプ点灯

EDSSキャンセルスイッチによるシステム解除操作

④車内報知・車外報知・
ブレーキ作動

アクセル操作無効



- 車内報知
 - ・音声警報「非常ブレーキが作動しました」
 - ・メーターディスプレイ「非常ブレーキ作動中」表示
- 車外報知
 - ・ホーン吹鳴 (断続)
 - ・ハザードランプ点滅
 - ・ストップランプ点滅 (高速)

EDSSキャンセルスイッチによるシステム解除操作

⑤停車

自動ドアロック解除

アクセル操作無効

ブレーキ保持



- 車内報知
 - ・音声警報「非常ブレーキが作動しました。警察救急に連絡してください」
 - ・メーターディスプレイ「非常ブレーキ作動中」表示
- 車外報知
 - ・ホーン吹鳴 (断続)
 - ・ハザードランプ点滅
 - ・ストップランプ点滅 (高速)

停車後の解除操作

⑥停車後のシステム解除

スタータースイッチ
『LOCK』で解除



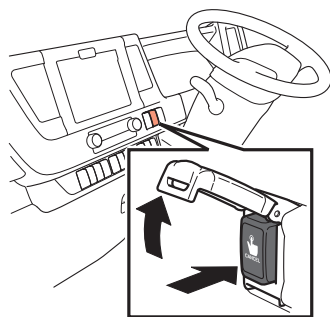
項目	イメージ	内容
突っ伏し		ドライバーが前方に倒れ、ハンドル付近まで顔が来ている姿勢が継続している状態
うつむき		ドライバーの顔が下を向いている姿勢が継続している状態
仰け反り		ドライバーの上半身が後方に傾き、顔が上を向いている姿勢が継続している状態
えび反り		ドライバーの上半身が反り上がり、顔が上に向いている姿勢が継続している状態
首のみ横倒れ		ドライバーの頭が左または右に傾いている姿勢が継続している状態
横倒れ		ドライバーの上半身が左または右に傾き、顔も同方向に傾いている姿勢が継続している状態
横もたれ		ドライバーの上半身が左または右に傾いている姿勢が継続している状態
長時間閉眼		ドライバーが長時間目を閉じている状態

アドバイス

- ドライバーモニターカメラが運転者の状況を正確に認識できないとき、自動検知が正しく作動しないことがあります。(⇒本書の 51 ページ)
- ドライバーモニターカメラ付近にドリンクホルダーなどのアクセサリを取り付けないでください。運転者の状況を正確に認識できず、システムが正常に作動しないことがあります。
- 以下のとき、ドライバー異常時対応システム (EDSS) は自動検知による作動を行いません。
 - ドライバーステータスマニターを『OFF』にしているとき
 - 車速が 60km/h を下回っているとき

システムの解除

- ドライバーが運転を継続できるにもかかわらず、ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動した場合は、EDSS キャンセルスイッチを押すとシステム作動が解除され、通常走行を継続することができます。



システムによる車両停止後の解除について

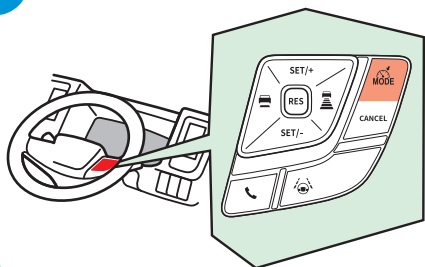
- 1 シフトレバーを『N』にします
- 2 スタータースイッチを『LOCK』位置にし、通常の手順で再度エンジンを始動します
- 3 車内外の安全を確認し、通常走行を行います

アドバイス

- 停車後は、ドアロックが自動で解除され、安全のためブレーキがかかったままになります。
- システム解除操作をするまで、車内報知、車外報知、ブレーキ作動は機能し続けます。
- 次の場合、ドライバー異常時対応システムは機能を停止します。
 - スタータースイッチを『LOCK』位置にしたとき
 - バッテリーが上がったとき
- システム作動による停車後も、エンジンはかかったままになります。
- 停車後は自動でパーキングブレーキがかかります。

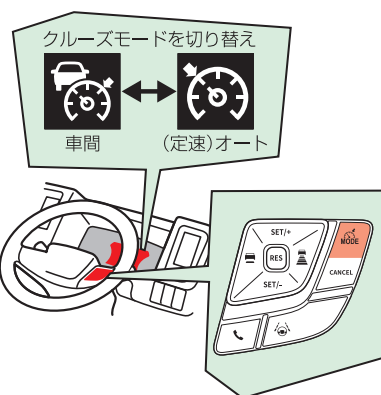
車間クルーズ機能を使う

1 モードスイッチを押す

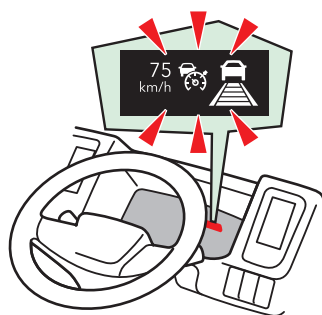


2 クルーズモードを選ぶ

- 車間クルーズモードを選ぶと、車間距離の自動維持機能が働きます。
- 車間クルーズ走行中にモードスイッチを押すと、オートクルーズ走行に切り替えることもできます。

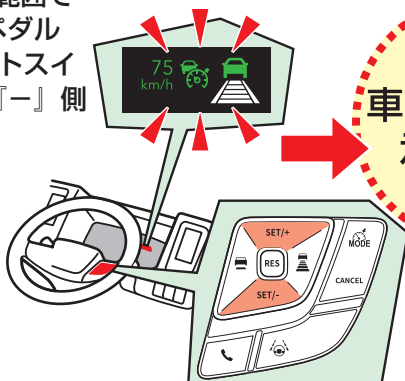
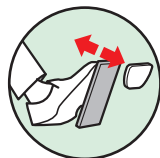


3 クルーズアイコンが白で表示されたことを確認する



4 約30～120km/hの範囲で希望車速にアクセルペダルを踏んで設定し、セットスイッチの『+』または『-』側を押す

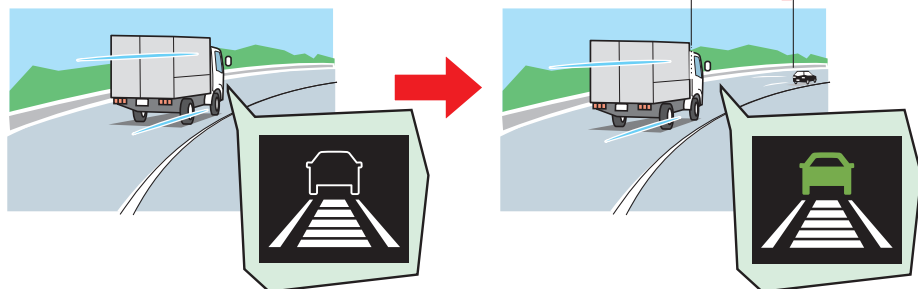
希望車速



車間クルーズ
走行開始

車間クルーズ機能で先行車を検知した場合は

- 先行車アイコンが表示されて、車間距離が自動で保たれます。



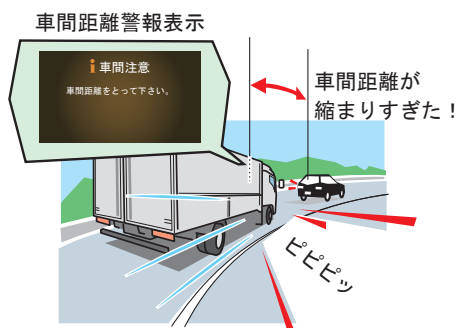
- 車間クルーズ機能を使わない（定速）クルーズ走行に切り替えたい場合は、モードスイッチを長押ししてください。

アドバイス

- クルーズ走行中にはクルーズモードの切替はできません。

車間距離警報について

- 先行車や障害物などの前方の物体に接近したときに、警報音・警報表示でドライバーに注意を促します。



車間クルーズ機能を解除する

- モードスイッチを押して、機能を解除します。

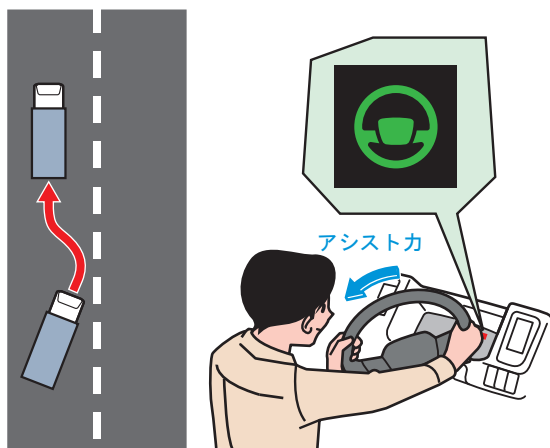
設定を変える

車間クルーズ機能・ 車間距離設定機能を 一時解除／復歸する	● 車間クルーズ機能中にキャンセルスイッチを押し、クルーズアイコンが灰または白で点灯したら一時解除になります。 ● リジュームスイッチを押して離し、メーターディスプレイのクルーズアイコンが緑で点灯したら復歸します。 ● 復歸直後の設定車速は、前回設定した値が適用されます。
車間クルーズ機能で 設定した車速を変え る	● 車間クルーズ機能中にセットスイッチの『+』または『-』側を押し続けて、希望車速になったらスイッチの操作を止めます。 アドバイス ● 車間クルーズ機能中にアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏み込んで、希望車速になったらセットスイッチの『+』または『-』側を押しても車速の設定を変えられます。
車間距離の設定を 変える	● 車間距離の設定状況は、5段階で表示されます。 ● 車間設定スイッチの『』で遠くなり、『』で近くなります。

レーンキープアシストの使い方

レーンキープアシストの作動

- レーンキープアシストとは、車線内を安全に走行できるようにハンドル操作をアシストするシステムの総称です。
本システムは高速道路や自動車専用道路で使用してください。
- 車線が整備された道路を走行するとき、カメラで車線と車両を検知することで次のシステム・機能が作動し安全な走行を支援します。
 - 車線逸脱抑制機能：時速約 65km/h ～ 120km/h で走行中に車線を逸脱するおそれがあるとシステムが判断した場合に警報を行い、車線の逸脱を回避するためのハンドル操作をアシストします。
 - 車線維持支援システム：全車速車間クルーズを使用して車線が整備された道路を時速約 0km/h ～ 120km/h で走行しているときは、車線中央走行を維持するようにハンドル操作をアシストします。
また、時速約 0km/h ～ 60km/h で走行中に車線が認識できなくなった場合、先行車が検知できているときは、先行車に追従するようにハンドル操作をアシストします。
- 車線維持支援システムの作動中、車線維持支援システム作動状態表示が緑色で点灯します。

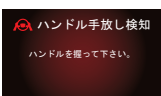


アドバイス

- レーンキープアシストは車線内の走行および渋滞時の走行を支援することを目的とし、前方不注意の補助や、手放し運転を行うためのシステムではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、安全運転を心がけてください。
- ハンドル操作のアシスト力やアシストのタイミングが運転操作の感覚と異なる場合は、レーンキープアシストを使用しないでください。

手放し運転をしたときは

- 警報音・警報表示でドライバーに注意を促します。

メーターディスプレイ表示		警報音	内容
メイン表示エリア	運転支援システム表示エリア		
	作動中 	なし	車線維持支援システムが『ON』の状態で作動中のときに、ハンドルから手を放して 10 秒経過したとき
	作動中 	ピピピピピ… (連続)	車線維持支援システムが『ON』の状態で作動中のときに、ハンドルから手を放して 20 秒経過したとき
	一時解除 	ピッピッピッ… (連続)	車線維持支援システムが『ON』の状態で作動中のときに、ハンドルから手を放して 25 秒経過したとき



レーンキープアシストの ON/OFF の設定

車線維持支援システムの ON/OFF

LKAスイッチを短押しする

- 押すたびに ON/OFF が切り替わります。



車線逸脱抑制機能の ON/OFF

LKAスイッチを長押し
(約3秒以上) する

- 押すたびに ON/OFF が切り替わります。



ふらつき警報について

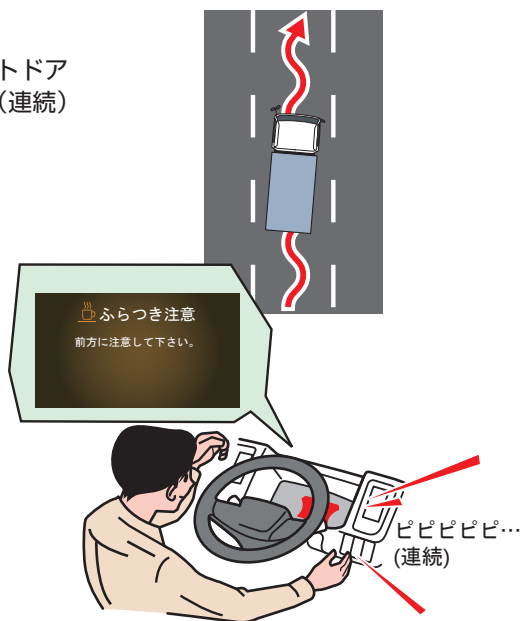
- 車両がふらついている場合、または危険と思われるハンドル操作があった場合にメーターディスプレイ表示とブザーで注意を促します。本システムは車速が70km/h以上で作動し、約65km/h以下になるまで作動し続けます。

アドバイス

- ふらつき警報は、ふらつきを自動で修正したり、運転中の疲労や体調不良を検出するものではありません。本システムを過信せず、運転するときは常に周囲の状況に注意し安全運転を行ってください。また、疲労や体調不良を感じた際は安全な場所に停車し、休憩をとってください。

車両のふらつきを検知したときは

- 「ふらつき注意」が表示されます。
- 近づいた車線と同じ方向のフロントドアスピーカーから、『ピピピピピ…』（連続）が聞こえます。



アドバイス

- システムの ON/OFF はメーターディスプレイの設定画面から設定できます。

メーターディスプレイの設定画面の使いかた

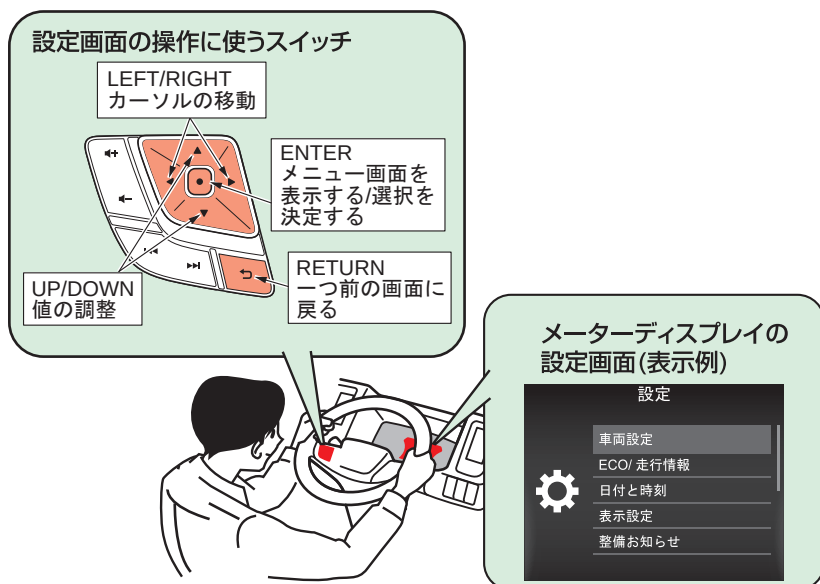
- メーターディスプレイから設定画面を呼び出して、車両の状態表示や各種設定を行うことができます。

基本的な操作例

- 1 『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させる
 - 運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。
- 2 『UP』または『DOWN』で希望の項目を選び、『ENTER』を押して決定する
 - サブ項目がある場合は、さらに希望の項目を選び、決定します。
- 3 『UP』または『DOWN』で、値の調整または確認したい情報を選び、『ENTER』を押して決定する
- 4 設定画面を閉じる場合は、『ENTER』を押す

設定画面からの操作説明について

- 本書では、設定画面から項目を選び値を設定する手順を次のように表現しています。
[設定] - [項目] - [サブ項目] で、値の調整、または情報を確認します。



MEMO

先進運転支援システムについて

メーターディスプレイ設定

PTOについて

(PTO : パワー テイクオフ)

- PTO (Power take-off) は、エンジンの動力を架装物の動力として取り出す機構です。

PTO の使いかた

デュアルクラッチ式 AMT 車（除く消防車）

接続

- 1 シフトレバーを『P』位置にして
パーキングブレーキレバーを確実に引く
- 2 エンジンを開始する
- 3 PTOスイッチを押し、『ピーッ ピーッ…
(連続)』とブザーが鳴っている間にPTO
コントロールレバーを下ろす

- PTO が接続される
ま で、「PTO 作
動準備中」がメーター
ディスプレイに表示
されます。

PTO 作動準備中
PTOの作動を準備しています。

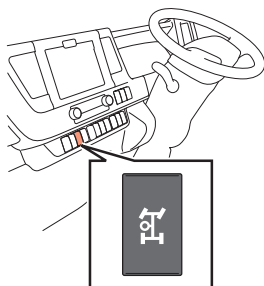
- 接続されると、「PTO
作動中」がメーター
ディスプレイに表示
されます。

PTO 作動中
PTOが作動しています。

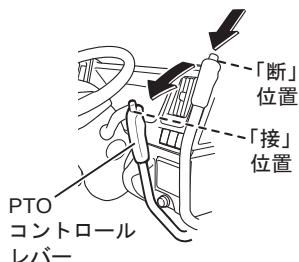
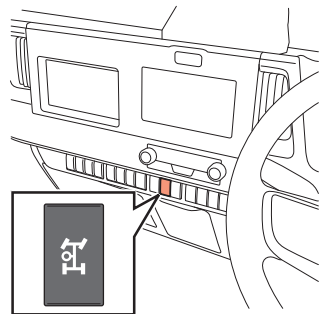
- ブザー音が『ピッ…ピッ… (連続)』に変わり、
自動的にクラッチがつながります。
- スイッチ式 PTO では、レバー操作は不要です。
- PTO スwitchを押し、約 10 秒以内に
PTO コントロールレバーを操作しないと、
PTO モードが解除されます。

- 4 架装物を操作する

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



PTO の接続ができないときは

1. PTO コントロールレバーを『OFF（断）』の位置に戻し、PTO スイッチを押し、PTO モードが解除されていることを確認します。
2. もう一度 PTO スイッチを押し、約 10 秒以内に PTO コントロールレバーを操作します。必ずブザー音を確認し、「PTO 作動準備中」がメーターディスプレイに表示されていることを確認してください。

アドバイス

- メーターディスプレイに「PTO 作動準備中」が表示されていてもクラッチが接続されず、PTO が作動しない場合は、①、②の手順を繰り返してください。

解除

- 1 PTOスイッチを押して『ピーツ ピーツ…（連続）』とブザーが鳴っている間にPTOコントロールレバーのロックボタンを押し、『接』位置にあるレバーを『断』位置にする

- PTO が解除されるまで、「PTO 解除中」がメーターディスプレイに表示されます。
- スイッチ式 PTO では、レバー操作は不要です。



- 2 メーターディスプレイの「PTO解除中」が消え、PTOの駆動が停止していることを確認する



アドバイス

- 車を発進させるときには、次のことを確認してください。
 - ・ 特殊装置が走行上、安全な状態にあること。
 - ・ PTO コントロールレバーが『OFF（断）』位置にあり、「PTO 解除中」が消えていること（ブザーが鳴っていないこと）。

[illegible]

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

[illegible]